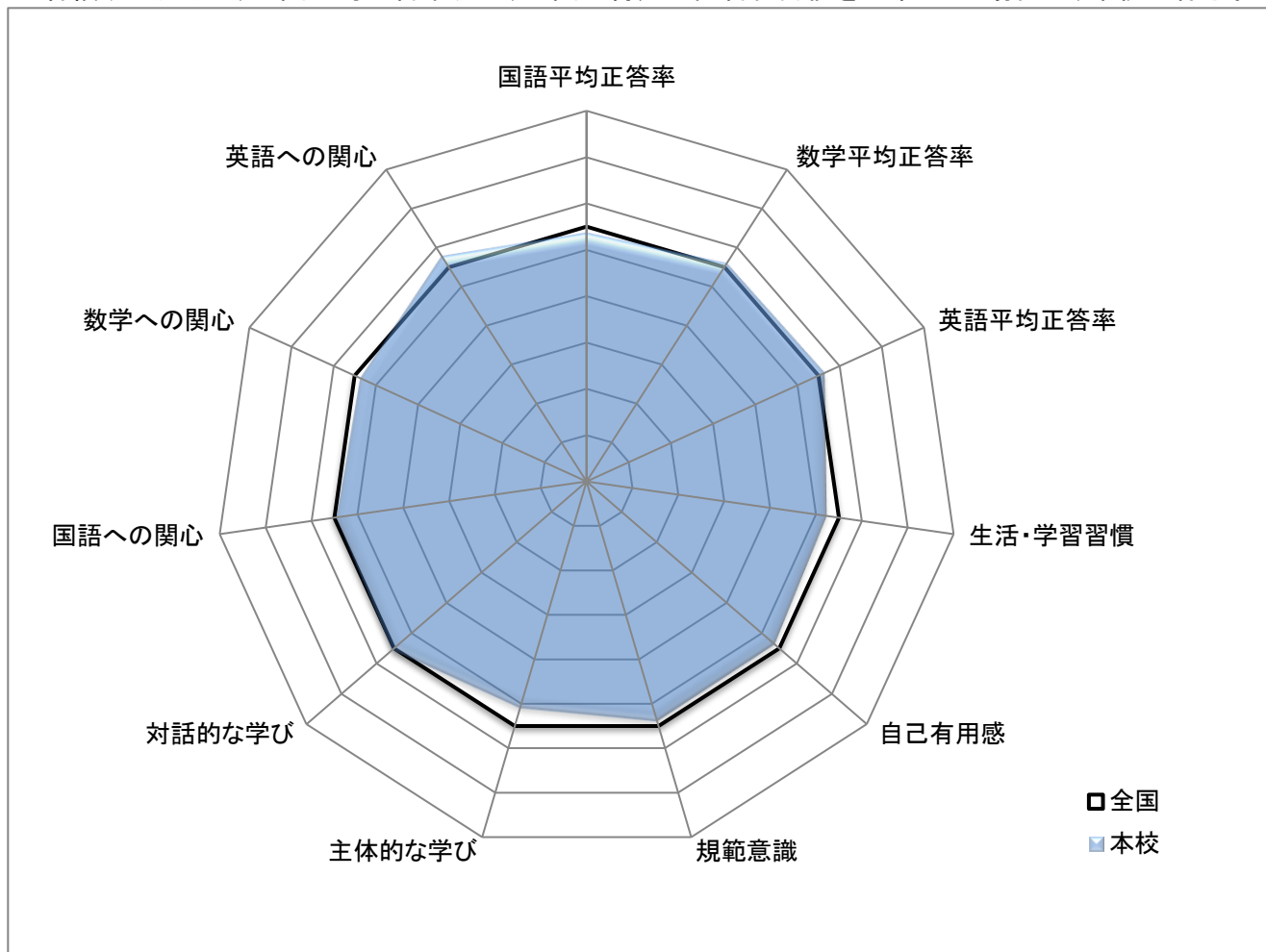


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

多少の誤差はあるが、すべての項目で全国平均と大きな差異がない結果となった。しかしながら「主体的な学び」については全国平均と比較すると、今回の数値で一番下回っている。また国語の平均正答率のみ全国と比較すると下回ってしまった課題がある。  
アンケートの結果からは、国語や英語への関心は全国平均とほぼ同数、またはやや上回る結果となっており、語学に対す関心や大切さは感じている生徒が多いことがわかった。

《授業改善のポイント》

今回の結果から、主体的な学びに重点を置いた授業改善が必要と感じられる。現在も協同作業や教え合い活動、グループ学習など、様々な場面で生徒の自主性と伸ばす授業を行っているが、まだまだ十分に成果が上がっていない結果となった。特に「話し合いを今後に生かす努力」や「既習事項を現在に生かしている内容」は全国平均を大きく下回る。  
このことから、話し合い活動においては、そのねらいが十分に果たしているか等、話し合い活動の持ち方自体を分析・考察する必要がある。については今後一層、生徒の主体性を育む授業改善の在り方を工夫・研究し、生徒の自己肯定感を高めながら、基礎・基本の定着と課題解決能力の向上を目指していく。

《チャートの特徴》

多少の誤差はあるが、各教科ほぼ全国平均と同数となっている。その中で「数学平均正答率」「英語平均正答率(話すことを含む)」「英語への関心」は少し上回ってる。しかし、「国語平均正答率」「生活・学習習慣」「主体的な学び」については多少下回る結果となってしまった。  
全国との比較はまずまずの結果であったが、東京都の平均と比較するとほとんどの項目が下回ってしまった。このことを管理職・教員一人ひとりが大きな課題であると真摯に受け止め、その改善を一步一步進めなくてはならない。江戸川区で進めている施策を積極的に活用しながら学力の向上を図っていく。

《家庭・地域への働きかけ》

生活や学習習慣の項目で全国平均を下回っているため、バランスの良い食事・運動・休養を心がけるよう、家庭でのご協力を一層お願いしながら連携・協力体制を強くしていく。  
またKGP等を行いながら家庭学習の習慣づけも、家庭と協力し合いながら推進する。